

鈴鹿市総合計画 2023 の

策定に当たって

鈴鹿市は、伊勢湾から鈴鹿山脈まで、豊かな自然と肥沃で広大な市域を有し、古くは伊勢の国府や国分寺が置かれ、江戸時代には東海道や伊勢街道の宿場町や城下町となるなど、政治、文化の中心地として栄えてきました。



1942（昭和17）年には、鈴鹿郡と河芸郡の2町12か村が合併して市制を施行し、自動車関連産業を中心としたものづくり産業の集積により、伊勢湾岸有数の内陸工業都市として順調に発展し、また、毎年、F1日本グランプリや鈴鹿8時間耐久ロードレースなど、数々の世界的なイベントが開催され、国際色豊かなモータースポーツの聖地として、その名を国内外に広く知られるようになりました。

このように本市では、自然や歴史、産業などに育まれてきた文化や風土、地域の絆が着実に継承され、個性豊かで自立精神にあふれ、活気あるコミュニティが形成されています。

一方、本市の人口は、2009（平成21）年1月に約20万5千人のピークを迎え、その後は、社会経済環境の変化などから減少局面に入っており、今後は、少子高齢化に伴う社会保障費の増大や公共施設の老朽化など、成熟型社会における新たな課題への対応が急務となっています。

このような中、2011（平成23）年に地方自治法が改正され、地方自治体での基本構想の策定義務はなくなりましたが、将来を見据え、持続可能なまちづくりを計画的に進めていくためには、中長期のまちづくりの理念や方向性を示す総合計画の役割はますます大きくなってきます。

そこで、本市では、中長期的計画策定のための「市民委員会」を設置して、市民の皆様積極的に御参画いただき、また、市民の皆様をはじめ、学生などの若い世代や外国人市民の皆様とも「まちづくり意見交換会」を開催するなど、多くの市民の皆様とともに計画づくりに取り組み、この度、「鈴鹿市総合計画2023（にいまるにいさん）」を策定しました。

本計画では、本市の将来都市像を「みんなで創り 育み 成長し みんなに愛され 選ばれるまち すずか」としており、新たな時代に対応し市民の皆様と行政が「オール鈴鹿」でスクラムを組んでまちづくりに取り組んでいくことを基本として、この将来都市像を実現させるため、本市を取り巻く社会経済の現状やまちづくりの課題を的確に把握し、計画期間に市民の皆様のために何をすべきかを考え、その取組の方向性を具体的に示しています。

特に、本市の宝である未来を担う子どもたちが健やかに育ち若い世代が安心して結婚・妊娠・出産と子育てができる環境整備と、地域の活力を生み出し新たな雇用を創出する企業誘致と新産業創造に重点を置くとともに、私が女性市長であるということからも、行政をはじめ、あらゆる分野において男女共同参画が進み、女性が活躍できる社会の構築にも取り組んでいくこととしています。

さらに、計画の実効性を担保し、効果的にまちづくりを推進するため、新たな仕組みを取り入れています。

まず、基本構想の期間を8年、基本計画及び実行計画の期間を4年とし、計画期間と首長の任期を考慮して、政策をより推進しやすいものとしています。また、従来の総合計画では、基本計画のみに各分野の目標値を設定していましたが、本計画では、基本構想にも具体的な目標値を設定し、8年間でめざす方向性をより明確にしています。

加えて、行政力の向上を持続的に図り、一層の成果向上をめざすとともに、後期基本計画では、市民の皆様が主役となって取り組む地域づくりのための計画を、地域別経営計画として位置付け、地域の個性をより生かしたまちづくりを進めていくこととしています。

国では、地方の活性化に向けて「雇用の創出」、「地方への人の流れの創出」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現」などを掲げ、地方創生の取組を推進しています。また、計画期間中の2018（平成30）年度には新名神高速道路が供用開始されるほか、各方面の道路整備や（仮称）鈴鹿PAスマートインターチェンジ周辺の基盤整備など、今後の本市の活性化や魅力向上の核となる取組が進んでいます。

このような国の動きやまちの変化などを柔軟に捉え、本計画に位置付けた施策を着実に推進し、将来にわたってまちの活力を持続的に生み出し、安心して住み続け、生きがいを持って健康に暮らすことができる、安定した住みよい地域を市民の皆様とともに創造し、誰からも愛され選ばれる都市として、次世代に引き継いでいけるように取り組んでまいります。

そして、本計画の下で、全ての人の笑顔があふれる鈴鹿の未来づくりを、市民の皆様や市議会の皆様とともに取り組んでまいりますので、お力添えをいただきますようお願いいたします。

最後に、本計画の策定に当たり、貴重な御意見、御提言をいただきました市民の皆様をはじめ、熱心に御審議をいただきました市議会、総合計画審議会などの関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

鈴鹿市長 末松則子